

昭和・平成の生活資料

令和7年の寄贈資料から

いしかり砂丘の風資料館では、この1年間に寄贈いただきました資料を、冬季のテーマ展「資料館のお宝2026」で展示します。

写真①は、浜益小学校の通学カバンです。聞き取りによると、旧浜益村の旧黄金小学校や旧浜益中央小学校で昭和50年代から使用され、現在の浜益小学校でも平成21年に入学した児童まで使われていたようです。カバンを持ってみると軽量であることが分かります。カバンの横には黄色の毛糸で編んだ鐘形のカバーの内部に、鈴のついた飾りが下げられています(写真②)。この鈴飾りの由来についてはよく分かっていませんが、現在も続いているそうです。

写真③は、石狩川下流域で使用されたヤツメウナギ用のドウです。高さは約140cm、開口部の直径は約70cmあります。ヨシで作られ、昭和に

使用されてきました。当時は冬季に結氷した川に穴を開けて、餌を入れたドウを設置し、捕獲していたそうです。冬季のヤツメウナギは脂がのり、かば焼きなどにして食べられました。ところで、いただいたドウをクリーニングして見たところ、なんと中から魚骨1点が見つかりました(写真④)。

ゴダツペ(カワカジカ?)とみられ、このドウを川に仕掛けた時に入り込んだ魚が、白骨化して残ったものと思われる。

写真⑤は、ガンタという道具です。丸太を動かすための林業用の道具として知られています。このガンタは石狩川下流で流木を移動させるために、20年くらい前まで使用されていました。

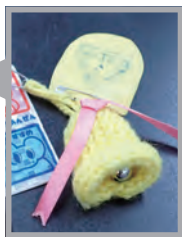
ご紹介したこれらの資料は、昭和から平成にかけて日常の暮らしの中で使われてきたもので、珍しいもので

はありません。しかし、そこからは、この100年ほどの間に地域の暮らしが大きく変わっていることが分かります。今ある暮らしが20年後、50年後にどのようなふうになつていくのか、昭和や平成のモノ・コトから考えてみませんか。(荒山千恵)

※魚の種類は調査中。ハゼ科のウキゴリの仲間も「ゴダツペ」と呼ばれているようです



写真① 浜益小学校で使用していた通学カバン(平成20年ごろに使用されていたもの)

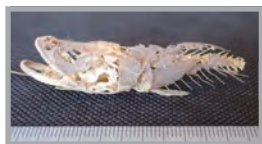


写真② カバンに下げられた鈴飾り



写真⑤ ガンタ(長いもので135cm)

写真④ ドウの中にあつた魚骨



写真③ ヤツメウナギ用のドウ



専門分野は考古学。遺跡の調査をはじめ、出土した木の道具、昔の考古学などの研究を行う。

テーマ展 資料館のお宝2026

日 4(日)~3/30(月)9時30分~17時
 入館料大人300円、中学生以下無料
 所 いしかり砂丘の風資料館(弁天町30・4)

文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館